

新生活 がんばっています!!!

目次

・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 55」

<2~5ページ>

「新規利用者受け入れ支援から学んだ、

わたげ流支援の心得！」

・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記（編集部）

<6ページ>

「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 55」

～新規利用者受け入れ支援から学んだ、わたげ流支援の心得！～

2020年6月より「中嶋真也さん」がわたげに通所を開始されました。この中嶋さんの受け入れ支援を、わたげ入職2年目である私、杉浦が担当させていただきました。施設長からこの大きな任務を受けた時、喜びの気持ちが沸き上がると同時に、私の弱点であるお腹もキリキリと痛みを沸き上がらせたことを今でも覚えています。

夢と希望とお腹の痛みに満ちた受け入れ準備から現在まで、私は施設長や先輩職員の方々から多くのことを学びました。今回の記事では、受け入れの流れをひとつひとつ振り返るのではなく、この受け入れ準備期間から、実際に中嶋さんとの関わりを通して学んだ「わたげ流支援の心得！」をテーマとして、話を進めさせていただきたいと思います。

「利用者さんの頭の中で地図が描けるように」

このキーワードは最初の段階、中嶋さんに【わたげとはどういうところで、何をやる場所なのか】をお伝えする資料作りの際にもらったキーワードです。わたげに一度も来たことがない方に対して、わたげがどういう場所で、なにをやる場所なのかを伝える際、ただ施設内の写真や、行ってほしい作業の写真をみてもらうだけでは、不親切な伝達かもしれません。相手の目線に立ち、わたげに来たらどんな視界が広がるかまで伝えられることができ、ようやく中嶋さんにとって分かり易い伝達資料となると思います。わたげやふぁずでは過去に、それぞれの利用者さんの目線の高さで、一日の行動に沿って施設内を撮影したビデオを使用して、新たな環境を伝達したことがあります。この支援の根底にあるキーワードも「利用者さんの頭の中で地図が描けるように」ということなのだと思います。

私はこの重大なキーワードをもとに、中嶋さんにはどのような伝達がよいか、まずはご家族と当時中嶋さんが利用されていた事業所の担当の方にお時間をいただき、これまでの中嶋さんの暮らしぶりを伺いました。また、事業所で実際に活動する中嶋さんの様子も見せていただき、わたげでの新しい生活をする中嶋さんのイメージを膨らませながら話し合いを進めました。その話し合いのなかで、これまで環境が大きく変わる時、事前にその場を見学させてもらってきた、という情報をご家族からいただいたので、今回もわたげ通所開始前に、ご本人とご家族にわたげを見学しに来てもらうことにしました。

そうと決まれば、中嶋さんの基本情報をもとにした、わたげ見学の日々のスケジュール作成の始まりです。この時も、キーワードは同じで、中嶋さんが見学当日を迎える前に、できるだけわたげの中の地図が描けるようなスケジュール作成を目指します。事前にご家族から伺った情報をもとに、スケジュールは写真で作成しました。私が意識した点は、中嶋さんの身長から目線の高さを考えた風景や角度を意識して写真を撮影したり、わたげの食堂は2階にあるので、スケジュールの中に階段の昇降もいれたりすることで、「頭の中で地図が描けるように」の実現を目指すことでした。また見学の日までに、中嶋さんがわたげに通所したら使用する予定の物品、座席、活動エリアを準備しておき、見学の日それぞれに実際に触れられるようにしました。作成したスケジュールは見学の前に、ご家族にメールでお渡しし、ご家族からの意見を聞き、手直しをしました。そうして、出来上がったスケジュールは、ご家族にご協力いただき、見学前にご家庭内で中嶋さんに見ていただいてから、見学当日を迎えました。準備を整え、いざ見学当日！中嶋さんはご家族と自家用車で来所されました。中嶋さんは車を降りると、職員の案内に応じながら、そしてご家族よりも一歩前を歩き、予定していたスケジュールに沿って見学を実施することができました。ご家族のご協力もあったことで、中嶋さんへのわたげとはどういうところなのか、という伝達は終始穏やか雰囲気で行うことができました。

また、事前に見学に来ていただけたことで、職員側もわたげで活動する中嶋さんのイメージを掴むことができ、よりご本人にあった環境を再構築することができました。

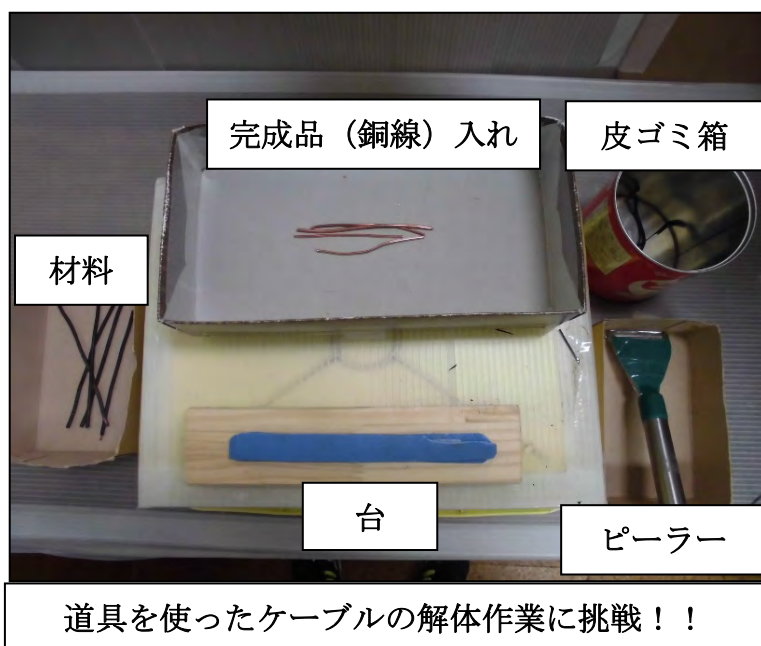
「【構造化】とは【環境の意味を伝える】ということ」

このキーワードは実際に中嶋さんが通所を開始して1週目のうちにもらったキーワードです。

さまざまな準備を経て、中嶋さんが無事わたげの一員として活動を開始されました。中嶋さんがこれまで培ってきた力をわたげでも発揮してもらえるような環境を目指して準備し、実際に中嶋さんに活動をしてもらいました。この環境の設定で私が意識したことは、目で見て何をするかを、イメージできるようにということでした。

私は中嶋さんの横で、自分が用意した環境をどう使ってもらえるか、どう環境を変えればさらに中嶋さんの行動がスムーズになるのかを探るため、注意深く観察させていただきました。観察を続けていると、中嶋さんは懸命に活動しようとしていながら、どこか不安そうな様子で活動されている様子が見受けられました。その時にもらったキーワードが「【構造化】とは【環境の意味を伝える】ということ」です。

このキーワードを受けた瞬間、私は大きな勘違いをしていたことに気づかされました。私は環境作りや、環境の再構造化に目を向けすぎていて、中嶋さんにその環境をどう使ってほしいのかをお伝えする点が疎かになっていたことに気づきました。今回私が行ってしまった支援とは環境だけ準備して「はい、どうぞ、見た通り使ってください。」というようなあまりにも失礼な対応になってしまいました。これでは中嶋さんが本来持っている力を正しく評価することはできません。環境を設定したらまずは、そこをどう使ってほしいかを丁寧にお伝えすること。丁寧にお伝えする、という点にも奥深さがあります。その人に新しいことを伝えるには職員はどのように伝えるか、どの程度説明したら実際にご本人にやってもらうのか等、その利用者さん毎、活動毎によって違いがあります。中嶋さんの場合は、職員が3回モデルを示した後、実際に中嶋さんに行動してもらい、その行動中の動きや視線を観察させてもらい、必要があれば、環境を再設定させていただきました。



そのような流れで支援を進めることで、中嶋さんはやるべきことが分からなくて行動がうまくいかないのか、それともやることは分かっているけど、環境としてやりにくさがあるって行動がうまくいかないのか、が見えやすくなり、必要な支援を見出しやすくなりました。

必要な支援を見出せた時には、潔く作り直すことが重要です。準備した環境は、中嶋さんの基本情報をもとに心を込めて作り上げた環境ではありましたが、実際に活動してもらおうと中嶋さんにとってわかりづらく、行動をうまく引き出せていない環境もありました。その時に、準備した環境の中で、小さく再構造化を図るのではなく、さらにご本人にとってわかりやすい環境があるはずと見出すこと。見出せたら、次にご本人が通所するまでには、一から考え直し作り変えた新たな環境で中嶋さんを迎えました。

必要な支援を必要な点に行い、時には、一から支援の組み立て直しを計ることで、中嶋さんは通所を開始して2週目には、示された写真カードを手掛かりに、職員の声掛けや促しを必要とせず、自ら行動をすることが見られ始めました。

コロナ禍での受け入れ「待つ支援」

中嶋さんは当初、2020年4月からわたげを通所する予定で打ち合わせを進めていました。しかしながら、3月頃から本格的にコロナウィルスの恐ろしさが世間に広まり、心落ち着かない日々と向き合わなくてはならない生活が始まりました。一回の外出でさえ、不安を感じる中、中嶋さんはこの状況の中で新しい生活をスタートすることとなりました。

わたげではこの世間の状況から、ご本人やご家族の気持ちを考慮し、ご本人やご家族が「わたげに行こう」という気持ちになるまで待つ体制を整えました。施設側がリードして、予定通り4月から通所を開始する方法もあったかとは思いますが、ご本人やご家族、また私たち職員が迷いを持ったままの通所では、通所後のご本人やご家族の生活に、影響が出てしまうかもしれません。わたげの支援の実践の中でも「待つ」支援は重要なキーワードです。職員側がペースを掴み、利用者さんに付き合ってもらうのではなく、職員があの手この手でお誘いはしつつも、最後は利用者さん自身が「よしやろう」と行動を始めるまで待つというのもわたげ流の支援だと思います。



通所開始当初から取り組んでいる銅線の解体作業！どんどんと完成品の数を増やしています！

4月を迎え、私たちは中嶋さんがわたげに通所してくださるのを楽しみに準備を進め、ご家族との連絡を続けさせていただき、ご本人やご家族の様子を聞かせてもらう日々を送りました。そして、ついに、6月の中旬にご家族から通所開始を希望する相談がありました。そこから通所開始準備に向けた最終調整を行い、無事に中嶋さんの通所を開始することができました。通所を開始した6月というのも、依然として先が見えない、不安な日々の真ただ中でしたが、それでも一歩を踏み出してくださった中嶋さんご家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に

私はこの受け入れ期間中に多くのことを学びました。今回、教わった支援、考え方は数多くありましたが、その根本は「利用者さんに敬意をもって支援をする」ということだと感じました。この言葉はありきたりな言葉かもしれませんが、この言葉を言葉だけではなく、実際の支援で表現しようとする、さまざまな実践や考え方に行きつくのだと体感することができ、これが「わたげ流支援の心得！」ではないかな?!と私なりに感じました。

中嶋さんは通所を開始してから3か月が経ちました。日々、新しい環境の中でもご本人が持っている力をどんどんと発揮してくださっています。通所開始から行っている銅線の解体作業では、当初、作業量が一日40本程度でしたが、今では一日600本以上まで数を増やし、さらに作業種もどんどんと増やしており、日々私たち職員を驚かせてくださっています。これからの中嶋さんの活躍に負けないように、私も日々の支援を頑張ろうと思います!



釣り具の数え作業中!
できる作業種も増えて頼もしいです!



ネジ数え作業に取り組み中!
数えたネジは他の利用者さんの
材料として活用されます!

記：杉浦 健太

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:いまうじ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話:046-884-8040 (担当:さかい)

E-mail: faz2018@wing.ocn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしかわ)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記

2000年4月当法人から知的障害を伴った自閉症の方が、地元企業に就職をしました。20年のうちに自閉症者を取り巻く世界が少しずつ変わってきました。2014年日本が障害者権利条約に批准しました。自閉症者の特性理解への啓蒙活動もあり社会が少しずつ変わってきました。そして、本人が働く場や環境、会社側の担当者も変わってきました。担当者が変わる度、支援者が改めて、本人の得意なコト、苦手なコト、自閉症者の特性をお伝えし、過去のケースバイケースの対応についてもお話させて頂いています。概ね月に1度、会社側のご理解ご協力を頂きなが、支援者が会社を訪問、その場で相談を受け、必要に応じては、その場で支援をします。これからも、本人が本人らしく「その会社で働きたい」というモチベーションをずっと支えていきます。

『必要とする人に 必要とする場で 必要とするサービスを』この文言は、当法人支援者の名刺に記されています。これも『わたげ流支援の心得』だと、入職2桁目の私も日々の支援から、そう学んでいます。

編集部 酒井

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp